

日本会計研究学会第63回大会を開催して

日本会計研究学会幹事 商学部教授

石川 鉄 郎



日本会計研究学会第63回大会（全国大会）が、去る2004年（平成16年）9月8日から10日までの3日間、中央大学が開催当番校となり開催されました。日本会計研究学会は、日本における会計学関連の学会としては最も中心的な組織であり、その規模も大きく、会員数は約1,700名となっています。主に会計学者が会員となっているアカデミックな組織ですが、公認会計士等のプロフェッションの方々も一部会員となっています。

日本会計研究学会の全国大会が中央大学を開催当番校として開催されるのは20年ぶりのことです。20年前の1984年（昭和59年）は、筆者がちょうど商学部の助手から専任講師に昇格した年ですが、そのときの大会は、飯野利夫先生が学会の会長をされ、準備委員会の委員長には富岡幸雄先生が、また内山力先生が事務局長となって開催されたことを記憶しています。

今回の大会は、商学部17名、経済学部3名、国際会計研究科8名、合計28名の専任教員が準備委員会のメンバーとなり、委員長に渡部裕巨教授、事務局長に北村敬子教授が就任し、約1年前から開催の準備が進められました。規模の大きい学会であるため、その開催準備には相当の時間と労力が費やされましたが、幸いにも各方面のご支援ご協力のもと、無事開催することができました。

とりわけ、学員組織であるため中央大学公認会計士会には、寄付を含め多大なるご支援ご協力を賜りました。準備委員の一人として、金井一夫会長、後藤徳彌幹事長をはじめ、中央大学公認会計士会の皆様にこの場を借りて心より深く御礼申し上げたいと思います。

また、今回の大会は、日本公認会計士協会のCPEの認定を受けたため、学会の会員とはなされていない公認会計士の方々も多数参加されました。準備委員会の事務局の調べでは、会員の参加者数は1,070名、CPE関連の非会員の参加者は79名でした。日本における会計を取り巻く環境の変化により、アカデミックとプロフェッションの交流は今後ますます重要かつ必要になってくると思われませんが、この意味でも今回の大会は意義深いものであったと考えております。

以下、大会の概要を簡単に記しますと、大会第一日目は、新宿京王プラザホテルを会場として、会員総会、スタディ・グループ報告、特別委員会報告、懇親会などが行われました。特に、懇親会は、日本公認会計士協会の藤沼亜紀会長にもご挨拶いただきましたが、502名という多数の出席者に恵まれ、例年以上に華やかで盛大なパーティになりました。

大会第二日目と第三日目は、会場を中央大学多

摩校舎に移し、ワークショップ、自由論題報告、統一論題報告が行われました。ワークショップでは、「アカウンティングスクールにおける会計教育」というテーマで、公認会計士試験制度の改正に伴い2005年（平成17年）4月から新設されることが決まった会計専門職大学院（通称「アカウンティングスクール」）をめぐる問題が取り上げられ、活発な議論が展開されました。公認会計士試験制度の改正は、国際会計士連盟（IFAC）の国際教育基準（International Education Standards）がベースとなっていると聞いていますが、そこでいう高等教育（higher education）にふさわしいものとなるためには、会計専門職大学院のみならず、学部を含むわが国の大学教育の内容はどのように改革される必要があるのか、そのようなことを考えさせられるワークショップであったと思います。

大会のメインイベントである統一論題報告は、「新しい会計秩序の構築をめざして」という統一テーマのもと、会計理論（第一会場）、会計制度及び監査（第二会場）、原価計算及び管理会計（第三会場）の3つの会場に分かれて報告と討論

が行われました。このうち、筆者が責任者を任された第一会場では、「会計基準の理論的統合をめざして」というテーマで、企業会計原則に代表される伝統的な会計基準と近年のいわゆる新会計基準（及び商法の改正）の関係をどのように理解すべきかという問題が取り上げられました。企業会計原則は、会計や監査のための実践規範として機能してきただけでなく、教育や研究のためのパラダイムとしても重要な役割を果たしてきました。そのため、企業会計原則と新会計基準の関係をどのように理解するかという問題は、単に会計ルール上の問題にとどまるものではなく、教育や研究の内容にも影響を及ぼす会計理論の根本問題の一つとなっています。容易に答えを出せる問題ではありませんが、第一会場では、このような根本問題をめぐって有益な議論が展開できたものと思っています。

最後に、今回の学会開催にあたりまして、皆さまから頂戴いたしましたご支援ご協力に改めて感謝申し上げますとともに、中央大学公認会計士会の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

IFAC(国際会計士連盟)の会長から 日本公認会計士協会会長に



藤 沼 亜 紀

この7月に日本公認会計士協会の会長に就任してから、あっという間に4ヶ月が経過しようとしております。

7月は、7月6日の日本公認会計士協会の総会後に札幌で夏季研修大会、8月は、協会では務務についての自己学習、数日間の夏休みと御殿場の経団連のゲストハウスでの国際会議と比較的余裕がありました。8月末から9月になり、協会の地域会総会や関連行事への参加や中期計画の構想を練る等急に忙しくなりました。10月に

は、ダイエー問題や西武・コクド問題が新聞紙上を騒がせ、また私の公認会計士・監査審査会（CPA/AOB）の委員就任に対して、一部の自民党議員が反対したことから（公認会計士協会の監査の品質管理レビューを監督する審査会に、監督される側の公認会計士協会会長が就任することは利益相反になるという論理から）、議員や議会対策、そしてマスコミ対応に大きなエネルギーを費やすような羽目になってしまい、最近では、会計監査問題はすぐに政治問題化することがよくわか

りました。

この最中、10月25日に中央大学八王子本部で商学部と経理研究所協賛の講演会に招かれ、立ち見の人がいたほど多くの学生諸君の前で、「今、公認会計士に求められるもの」と題して、日頃から考えていることを自由に話す機会を与えていただきました。講演の前には、学長、井上ゼミで同期だった北村敬子副学長、そして角田学長及び阿部理事長をはじめ大学の首脳部にもご挨拶することができ、また講演後には、木島経理研究所所長、渡部教授、そして木下教授などとの懇談の場を設けていただき、すっかり学生時代に戻ったような気がして大いに気分転換ができました。

40年近く前の中央大学在学中の二次試験では、優等生とは対極の学生であったために、当時経理研究所で学生の指導にあっていた渡部先生や木下先生などに大変ご迷惑をかけていたことを思い出しました。考えてみると、今日に至るまでの人生の中で大学も含め、中央大学公認会計士会の皆さまには有形無形のご支援をいただきました。

私がIFAC（国際会計士連盟）の理事になる前の1980年代に、当時のIFACの事務総長のボブ・シャンピア氏に「将来の日本のIFAC会長候補はAki Fujinumaだ」と先物買いで私を売り込んでくれた川北博先生（元日本公認会計士協会会長）や、私がIFAC副会長に立候補すべきか否かで逡巡していた時に、背中を押してくれた当時の日本公認会計士協会会長の山本秀夫先生をはじめ、多くの中央大学の諸先輩や仲間たちに助けられてきました。

1997年のパリ世界会計士会議（IFAC副会長就任時）、2000年5月のスコットランドのエジンバラでのミニ世界会議（IFAC会長就任時）、そして2002年11月の香港での世界会計士会議（会長退任時）のそれぞれの局面で、現地で中央大学公認会計士会を開催していただき、大いに元気付けられました。亡くなった白鳥栄一先生（元国際会計基準委員会議長）と奥様がパリの国際会議場に隣接したコンコルド・ラファイエットホテル近くの日本料理店で開かれた中央大学公認会計士会に

参加されていたことも思い出します。

さて、IFACの会長就任後、私の後任のフランスのルネ・リコール会長との約束で、IFACの仕事を引き続き前会長の立場で少し手伝うことになっていましたが、長い間事務所に迷惑をかけていたので、事務所の仕事に専念する予定でした。しかし、2003年になって2004年春に予定されている日本公認会計士協会の会長選挙に奥山章雄会長の後任として出馬したらどうかという話が、確か初めは川北博先生からありました。たぶん中央大学の諸先輩が相談した上でのことだったと思います。事務所の方も高橋善一郎先生（元日本公認会計士協会会長）が新日本監査法人として私を会長候補者として正式に擁立すべきであるという話を法人のOB会で切り出し、一つの流れが出来上がっていました。

IFACの会長の次に日本公認会計士協会の会長になることについては少し抵抗感がありましたので、フランスの会計士協会の会長も務めたことのある友人のルネ・リコール氏に相談すると、国内の協会の会長職は政治や経済界との係わり合いが複雑で難しい問題もあるが、国際経験も生かせるので是非ともやってみたらどうかと薦められました。幸いにも、私以外に立候補者も出ず、日本公認会計士協会選挙では極めて異例と思われる無投票当選という結果になりました。これも事務所の支援に加えて、中央大学公認会計士会のバックアップがあつてのこととっております。

さて、選挙は無難に通りましたが、ゴールはまだ遙か彼方です。JICPA ジャーナルに新会長の抱負を書きましたが、ビジョンを明確にして戦略を立て、達成課題を短期、中期そして長期に分けながら実行に移していきたいと考えております。現在私の任期中の3年間に亘つての中期計画を策定中です。財務情報の信頼性回復のために監査実務の充実が最優先課題です。次に優秀な後進育成に結びつく新公認会計士試験への準備、中小事務所への業務支援のための諸施策の実施、2007年問題などの国際化への対応、役員選挙制度、日本公認会計士協会の理事会や常務理事会の役割や

権限などの再検討を含む協会組織とガバナンスの見直しなど、挑戦すべき課題が山積しております。今後も皆さまのご意見やアドバイスを傾

け、会計士制度の前進と会計プロフェッションのすその拡大に全力を尽くすつもりです。引き続きご支援をお願いいたします。

「第17回CPAゴルフ会」の結果、 団体戦(ネット)で準優勝、阿部氏がベストグロス

10月3日(日)、小型台風並みの風雨の中、第17回CPAゴルフ会(十月会)が東急セブンハンドレッドゴルフ倶楽部で開催されました。悪天候にもかかわらず、総勢110名、我が中央大学からは13名が参加し、盛大に開催されました。

CPAゴルフ会(十月会)は、早稲田と慶応の二大学出身者の大学対抗ゴルフを大学対抗ゴルフとして拡大し、17年前から開催されています。創立当時のメンバーでは、早稲田大学の南光雄氏のみが今回も参加しました。このゴルフ会では、前夜祭付きで開催した棚倉田舎ゴルフ倶楽部や、伊藤園レディースが開催されるグレートアイランドゴルフ倶楽部で長く開催されていましたが、昨年より東急セブンハンドレッド倶楽部に会場が変更されています。

東急セブンハンドレッドゴルフ倶楽部は、富士通レディースが開催される西コースを含め東西36ホールあり、東西のアウト・インの4ヶ所に分かれて短時間に全員がスタートできるメリットがあります。東西のコースには、コースレートに若干の違いがあり、大学間で有利不利の問題が生じないように、各大学の参加者を東西に均等に配分する等の細かい配慮がなされて大会が運営されました。

今回、スタートは順調でしたが、悪天候のため大幅にホールアウトが遅れた組もあり、早いスタートの組は長時間結果を待つことになりました。結果は、悪天候のためにスコアを乱した人も多くありましたが、上級者には例年のようなハイスコアを出す人が続出しました。

中央大学チームは昨年不甲斐ない成績であったこともあり、必勝を期してスタートしましたが、結果は下表のようにネットで2位、グロスで3位の成績となりました。個人戦(ネット)では、川和 浩氏の4位が最高でしたが、阿部紘武氏が同じ組でまわった専修大学の大庭四志次氏とともに77のハイスコアでベストグロス賞を獲得しました。阿部氏以外のグロスの上位者は、下表のとおりです。

今年度の中央大学からの参加者は、阿部紘武氏、小池 勇氏、川和 浩氏、森谷伊三男氏、宮内忍氏、飯野雪男氏、関 功氏、井上 繁氏、川村芳則氏、桜井欣吾氏、福田真也、櫻井嘉雄氏、黒田克司氏の13名で、上級者もおりますが、参加者を上手な順に選んだわけでもありませんので、我こそはという方は是非参加していただきたいと思ひます。

ネット

	大学名	上位4名までのスコア
優勝	早稲田大学チーム	285.4
準優勝	中央大学チーム	286.4
3位	専修大学チーム	289.2

グロス

	大学名	上位4名までのスコア
優勝	専修大学チーム	328
準優勝	早稲田大学チーム	332
3位	中央大学チーム	340

中央大学チーム上位4名のグロススコア

阿部 紘武氏	77
小池 勇氏	84
川和 浩氏	89
森谷伊三男氏	90

今年度当番幹事 福田真也

第二次試験合格体験記

中央大学経済学部公共経済学科卒
藤林由香利

今回、二度目の受験で公認会計士第二次試験に合格することができて大変嬉しく思っております。

私は、高校生の時に公認会計士という職業を知り、専門性のある職業に就きたかったこと、数字を扱うことが好きだったことから、興味をもちました。大学入学後すぐに、経理研究所に入り、簿記2・3級から勉強を始めました。簿記の勉強が楽しいと感じ、さらに公認会計士である講師の方やスタッフの方のお話を聞いて会計士の役割の重要性や仕事の将来性に魅力を感じたため、目指すことを決めました。

始めは比較的順調に進んでいた勉強も、理論科目が始まる頃から次第に遅れをとり始めました。計算力もままならぬうちに、理論科目を勉強するのはとてもつらく感じました。なんとかカリキュラムにはついていったものの、自分の思うような勉強が出来ず、不安を残したまま本試験をむかえることになりました。その結果、短答式試験で不合格になってしまいました。論文まで受けきれな

いことに、大変悔しい思いをしました。

二度目の受験は、自分の勉強スタイルを確立させることから始めました。疲れを感じても休憩せず、ひたすら机に向かって勉強していたそれまでのやり方を変え、短時間で集中し、しっかり休憩をとるようにしました。常に自分に厳しくして、完成させたはずの論点が出来なかったときは猛反省し、二度と同じミスをしないようにしました。そして、自分が今やっていることに自信を持ち、周りの人に流されない強さを持ちました。

試験直前、緊張と不安で逃げ出したい思いもありました。しかし、今までを振り返ったときに、やるだけのことはやったと自信をもって言え、自然に成功のイメージがわきました。そうなればもう大丈夫でした。試験では、あまり緊張することもなく、自分の力を出し切れたと思います。その結果、合格することができました。

今思えば、合格後の自分を想像し、モチベーションを高めながら勉強をしたことが合格につながった気がします。一度目の受験のときには、「会

計士試験に合格するため」に勉強していて、合格後が見えていなかったように思います。二度目のときには、「会計士として働きたいから」勉強しているということを忘れないようにしました。受かる保証のない中で、会計士として働きたいという強い思いがあったからこそ、つらい生活にも耐えることができたと思います。

最後になりましたが、これまで私を支えてくだ

さった経理研究所の諸先生方、スタッフの方々、そして友人に心から感謝しております。ありがとうございました。ようやく会計士としてスタートすることができました。これからは勉強をしていく中で培った粘り強さを生かし、自分の能力を高め、社会に貢献できる会計士となれるよう、努力し続けていこうと思います。

公認会計士二次試験合格の感想と将来について

中央大学経済学部経済学科3年
高橋直明

11月8日、公認会計士二次試験の合格発表の日、前日の夜は興奮と不安で一睡もできず、朝が近づくにつれて不安が大きくなるのを感じた。当初一人で見に行く決めていたが、母は、僕の言うことを一方的に無視して、朝の満員電車に乗って霞ヶ関までついてきた。

合格発表の10分前に金融庁に着いたが、そのときはすでに長い人の列ができていた。やがてその列が前に進んでいく。ゆっくりではあるが確実に。このときの自分には、もう不安しかなかった。もし、掲示板に名前がなかったらどうしよう。多分、僕は駄目になるだろう。3年前、自分が描いた10年後の自分は、本当に夢のままでおわってしまう。そして、僕はアイデンティティー・クライシスに陥って生き甲斐を失うだろう。そうはなりたくはなかった。だから絶対に合格していなければならぬのだ。

掲示板を見て自分の名前があることを確認して、小さくガッツポーズをした。その瞬間に緊張の糸は切れた。その時、僕は自分が今、この世界で生きていることを全身で感じた。それまでは、自分の体はここにいるけど、心がどこか違う場所があるような感じだったが、それが急に現実の世界に戻されたようだった。自分はまだ、この夢の続

きを歩むことができる。本当に嬉しかった。

でも、隣で泣いていた母は僕よりももっと嬉しそうだった。どうしてだろう、そんなことが今の自分にはまったく理解できないが、親というものはそういうものなのかもしれない。

今まで僕は両親に対して一度も恩返しをしたと思ったことがなかったので、とにかく早く恩返しがしたかったことが僕が大学生の間に公認会計士の資格を取ろうとした一番の大きな動機である。もちろん、1発で合格することしか最初から考えていなかった。できると思ったから、挑戦した。そして、できると思いつづけたから実際に合格できたのである。

公認会計士二次試験に合格したことで、恩返しできたかどうかはわからないが、とにかく、両親が喜んでくれたことで、僕は本当にやってよかったと思った。そして、今まで自分を育ててくれた両親には、本当に感謝している。ありがとう。

なお、この原稿を書くにあたっては、昨年及び一昨年の先輩たちが書いた合格体験記も参考にさせて頂いたが、苦労や辛い体験から学ぶことよりも、純粹な喜びから学ぶものの方が遥かに大きいと考えたので、受験生活における苦労話はあえて書かなかったことを断っておきたい。

ここからは、自分の将来について考えていることを少し書きたいと思う。

将来自分が公認会計士になることについては、少し不安がある。これからの就職活動が大変だからとかいう不安ではなく、公認会計士という職業が実際にやりがいがあるかどうか、まだわからないからである。それは、実際に働いてからでなければわからないことであるが、合格に少なくとも2年という長い歳月を費やしたので、期待はどうしても過度になってしまう。

《イヤなことはやらない。自分が本当に好きな事を捜す。》これは、小説家の村上龍氏の言葉を借りたものだが、同時に僕にとっての目標でもある。これを言葉で言うのは誰でもできるが、実際

に実行するのはすごく大変なことである。何よりもすごくエネルギーが必要である。もし、公認会計士の仕事が自分にとってやりがいのあるものでなかった場合は、すぐにやめるつもりだ。資格はあくまでも人生の選択肢の一つであり、資格に頼って生きていくことだけは、やめようと思っている。しかし、試験に合格して、友達から一番多く言われた言葉が「これで将来安泰」というような内容だったので、公認会計士という職業について少し虚さを感じた。

とにかく今は、早く実務について、自分の目で確かめてみたい。そして、これからの将来をもう一度考えたいと思っている。

平成16年度事業計画（平成16年4月から平成17年3月まで）

- | | | | |
|----------------|---------|-------------|----------|
| 1. 中央大学講演会講師派遣 | 経理研究所主催 | 3. 会報の発行 | 平成16年12月 |
| | 商学部主催 | 4. 研修会及び新年会 | 平成17年1月 |
| 2. 総会、研修会及び懇親会 | 平成16年4月 | | |

平成15年度収支決算書

（自平成15年4月1日 至平成16年3月31日）

（単位：円）

I. 収入の部	平成15年度予算額	平成15年度決算額	差額
1. 会費収入	1,500,000	1,262,000	238,000
2. 総会懇親会収入	400,000	364,000	36,000
3. 講演会等行事収入	300,000	282,000	18,000
4. 同好会収入	0	0	0
5. 受取利息	2,000	53	1,947
収入合計	2,202,000	1,908,053	293,947
II. 支出の部			
1. 総会関係支出	700,000	702,051	△2,051
2. 講演会等行事支出	700,000	436,970	263,030
3. 会報関係支出	200,000	272,302	△72,302
4. 学生奨学関係支出	600,000	0	600,000
5. 対外関係支出	50,000	36,054	13,946
6. 事務費用	10,000	83,640	△73,640
7. 雑支出	10,000	48,532	△38,532
支出合計	2,270,000	1,579,549	690,451
当期収支差額	△68,000	328,504	△396,504
前期繰越金	1,768,229	1,768,229	0
次期繰越金	1,700,229	2,096,733	△396,504

貸借対照表

(平成16年3月31日)

(単位：円)

I. 資産の部	
1. 現金	1,498
2. 郵便貯金	1,911,255
3. 振替口座	183,980
資産の部合計	2,096,733
II 負債の部	0
III 収支差額の部	
次期繰越収支差額	2,096,733
負債及び収支差額の部合計	2,096,733

財産目録

(平成16年3月31日)

(単位：円)

I 資産の部	
1. 現金	1,498
2. 郵便貯金	1,911,255
3. 振替口座	183,980
資産の部合計	2,096,733

平成16年度収支予算書

(自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)

(単位：円)

I. 収入の部	
1. 会費収入	1,300,000
2. 総会懇親会収入	400,000
3. 講演会等行事収入	300,000
4. 同好会収入	0
5. 受取利息	1,000
6. 前期繰越金	2,096,733
収入合計	4,097,733
II. 支出の部	
1. 総会関係支出	750,000
2. 講演会等行事支出	500,000
3. 会報関係支出	300,000
4. 学生奨学関係支出	600,000
5. 対外関係支出	50,000
6. 事務費用	100,000
7. 雑支出	50,000
支出合計	2,350,000
次期繰越収支差額	1,747,733

会費振込のご協力ありがとうございました。本年度もよろしくお願ひします。

以上

平成16年公認会計士第二次試験 出身大学別合格者数

1位	(1)	慶應義塾大学	208名	7	(5)	一橋大学	56名
2	(2)	早稲田大学	153	7	(7)	同志社大学	56
3	(3)	東京大学	93	9	(6)	京都大学	50
4	(4)	中央大学	76	10	(一)	立命館大学	40
5	(8)	神戸大学	62	() は前年順位			
6	(9)	明治大学	60	日本公認会計士協会の調査による。			

平成16年公認会計士第二次試験合格者 (76名)

氏名	学部・学科	在・卒	氏名	学部・学科	在・卒
赤津 紀広	商・会計	04. 3卒	徐 鈴華	商・商貿	03. 3卒
浅岡 篤史	商・会計	3年在学	白鳥三和子	商・会計	92. 3卒
芦澤 宗孝	経・産経	96. 3卒	鈴木健太郎	商・金融	97. 3卒
安達 岳夫	商・会計	04. 3卒	鈴木 卓也	商・会計	3年在学
池田 徹	商・会計	00. 3卒	高田 政憲	経・国経	01. 3卒
石原 修	理工・管理工学	95. 3卒	高橋 直明	経・経済	3年在学
石見 隆之	法・法律	98. 3卒	田口 哲郎	商・商貿	96. 3卒
板垣宏一郎	商・会計	98. 3卒	武井 邦仁	商・会計	00. 3卒
市野澤剛士	商・会計	4年在学	田中 正照	商・会計	00. 3卒
出浦 直哉	商・会計	04. 3卒	田邊 貴久	経・経済	03. 3卒
今村章太郎	商・会計	04. 3卒	寺田 大輝	商・経営	3年在学
魚橋 直子	商・会計	02. 3卒	富田 正明	商・会計	00. 3卒
枝 大樹	商・会計	03. 3卒	長嶋 俊行	法・政治	01. 3卒
太石 雄太	商・会計	3年在学	中村 隆敬	商・会計	4年在学
大木 基嗣	商・会計	04. 3卒	西田 良平	商・会計	04. 3卒
大久保貴幸	商・会計	04. 3卒	布谷三四郎	法・政治	00. 3卒
大澤 一真	商・会計	4年在学	野村 浩美	商・会計	4年在学
大田 冬樹	法・法律	00. 3卒	鉢野 まり	法・法律	97. 3卒
大塚 俊秀	経・産経	00. 3卒	花岡 由佳	経・経済	98. 3卒
大沼善次郎	商・商貿	04. 3卒	羽田 成秀	商・商貿	3年在学
大好 慧	商・会計	04. 3卒	濱中 智子	経・経済	00. 3卒
小川 瑞恵	商・商貿	04. 3卒	早川 昇兵	商・会計	3年在学
荻原 理恵	経・経済	01. 3卒	林 寛之	商・会計	3年在学
小口 勇治	商・会計	01. 3卒	原 さや香	商・会計	4年在学
尾崎 雅代	商・会計	98. 3卒	春田 岳亜	商・経営	04. 3卒
小田 陽一	商・会計	02. 3卒	樋口 茂孝	経・産経	00. 3卒
恩田 佑一	商・経営	6年在学	福島 裕文	商・会計	4年在学
片山 裕介	商・会計	4年在学	福島 史之	法・法律	04. 3卒
嘉手苺直人	商・会計	01. 3卒	藤林由香利	経・公経	4年在学
加藤 翔也	商・会計	4年在学	保坂 高史	商・会計	3年在学
加藤 将也	商・会計	4年在学	道野 史之	法・法律	00. 3卒
加藤 亮	商・会計	3年在学	三橋 秀一	商・会計	02. 3卒
金田 洋一	商・会計	99. 3卒	三橋 幸絵	商・会計	03. 3卒
菊池 貴之	商・会計	04. 3卒	村上 智昭	商・会計	4年在学
黒田 和哉	経・産経	99. 3卒	安江 瑠奈	経・経済	3年在学
小林 崇志	経・経済	4年在学	八並美映子	商・商貿	04. 3卒
作花 良祐	商・金融	02. 3卒	矢野 琢磨	商・会計	01. 3卒
笹川 大悟	法・国企	99. 3卒	山田 勝也	経・公経	4年在学

中央大学公認会計士会会報「絆」の第11号をお送りいたします。お忙しい中ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。

今回は巻頭に、中央大学で開催された日本会計研究学会第63回において幹事として御活躍された石川先生に「日本会計研究学会第63回大会を開催して」というタイトルで大会の模様についてご寄稿いただきました。当大会は公認会計士協会のCPE取得対象となったこともあり、会計学者だけではなく非会員の公認会計士も数多く参加していたとのことであり、公認会計士である本会会員の皆様にとっても興味深い内容ではないかと思います。

また、今年は公認会計士協会の役員改選時期でもあった訳ですが、本会会員の藤沼先生が会長に就任されました。そこで藤沼先生には「IFAC（国際会計士連盟）の会長から日本公認会計士協会会長に」と言うタイトルで、最近の動向や会長就任までの経緯等を思い出話を交えてご寄稿いただきました。

我々公認会計士の主業務のひとつである「監査」

を取り巻く環境は日々厳しさを増しており、「絆」をお読みいただいている本会会員の皆様も何かとストレスを募らせている方も多いのではないかと思います。そのストレス発散を緑の中の白球に打ち込めておられる方も少なからずいらっしゃるものと思いますが、今年の出身大学対抗CPAゴルフ会の結果を福田先生に書いていただきました。

平成16年度公認会計士第二次試験は合格者数1,378名と過去最大で、本学出身者は76名となりました。昨今、新聞や雑誌において公認会計士2次試験合格者の就職問題が取り沙汰されておりますが、業界全体で考えていかなければならない問題であると思います。そんな中合格者の中から藤林さんと高橋さんに合格体験記をいただきました。フレッシュな声を是非お読みいただくとともに、合格者の皆様の更なる発展を一緒に祈念したいと思います。

来年も会員の皆様が今年同様一層ご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

中央大学公認会計士会報 No.11

平成16年12月1日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

金 井 一 夫

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館4階

中央大学経理研究所気付